

第25回全国スカウトフォーラム

実施報告書



令和6年11月2日(土)~4日(月・祝)
兵庫県立嬉野台生涯教育センター

目次

1. 実施概要	4
開催趣旨.....	4
基本情報.....	4
2. 事前集会	5
日程表.....	5
開会式.....	6
妄想自己紹介.....	6
基調講演.....	7
グループワーク.....	7
閉会式.....	8
3. フォーラム	9
日程表.....	9
1日目.....	10
2日目.....	16
3日目.....	25
4. フォーラムでの生活について	28
5. フォーラム提言文	29
6. 事後配布資料	30
7. アンケートの結果	31
アンケートは事前集会・各日の最後に行った。参加者の声は一部抜粋.....	31
事前集会.....	31
フォーラム.....	33
8. 事前準備	42
運営委員会発足.....	42
事前提出課題.....	43
基調講演.....	44
9. 運営委員長所感	45
10. 講評	46
11. 付録	47
広報.....	47



1. 実施概要

開催趣旨

スカウト活動の原点である「スカウトたちの声に耳を傾け、その意見をスカウト運動に反映すること」を実践し、「青少年の意志決定への参画」をより推進することを願い、全国スカウトフォーラムを開催します。

スカウトフォーラムでは、スカウト個々が自己の成長をはかり、幅広い社会性を身につけ、相互の理解を深めるための貴重な機会が提供されるよう開催します。また、フォーラムでの討議が参加者のみならず広く共有されるよう、参加スカウトの気運を高め、各県連盟へフィードバックできることを目指します。

フォーラムでの討議が幅広く共有するよう、参加スカウトの気運を高め、各県連盟へフィードバックできることを目指します。

基本情報

開催日時

事前集会：2024年10月19日(土) 18:30~21:00 オンライン

フォーラム：2024年11月2日(土)~4日(月・祝) (2泊3日間)

開催場所

兵庫県立嬉野台生涯教育センター

兵庫県加東市下久米1227-18



テーマ

高校生年代×地域社会 ~私たちだからできること~

参加費

15,000円/人

参加対象

県連盟代表スカウト 2名

参加者

43県連盟の代表ベンチャースカウト 72名

スタッフ

全国スカウトフォーラム運営委員会 15名

日本連盟プログラム委員会 5名

日本連盟事務局 2名

兵庫連盟支援委員会 8名

2. 事前集会

<目的>

- 1.フォーラム当日をより有意義なものにするため、グループの中での緊張をほぐし話し合いが出来る雰囲気を作る。
- 2.基調講演を通して今回のフォーラムのテーマに対する理解を深めると共に、ルックワイドの観点からスカウトに新しい視点を提供する。

<評価>

- 1.妄想自己紹介や、グループワークの時間を通してグループでの話し合いを行った結果、初めよりスカウトに笑顔が見え、グループ内での緊張がある程度ほぐれたと考える。また、最後に当日に向けての質問・確認の時間を設けたが、運営委員の想定よりスカウトが不安に感じている事が多く、それらをその場で解決出来た事で、当日をより有意義なものに出来たと考える。
- 2.グループワークでの振り返りで各グループから新しい視点を得られたという声があり、達成できたと評価できる。また、質疑応答の時間にも基調講演の内容を踏まえ自分たちの考えを入れながら積極的に質問する姿勢が見られた。

日程表

時間	内容	備考
17:30	スタッフ集合	最終流れの確認、スライドチェック
18:15	受付開始	参加者の表示名の変更・配布した背景の変更の呼びかけ
18:30	開会式	
18:40	自己紹介	ブレイクアウトルームに分かれ、各グループで妄想自己紹介
18:55	講師紹介	
19:00	基調講演	<ul style="list-style-type: none">・自己紹介・地域問題、社会問題とは何か・地域問題にはどのようなものがあるのか実際について・高校生が行えるもの、行っているもの・講演者が行っている活動の紹介
19:50	グループワーク	当日のグループに分かれて基調講演の感想や気付き、疑問の共有
20:10	休憩	スカウトから出た質問の選定
20:20	質疑応答	代表スカウトからの質問
20:40	写真撮影	
20:45	当日に向けて	配布物、事前課題、持ち物、集合場所など確認
20:55	閉会式	
21:00	解散	

開会式

<内容>

開会式は以下の内容で行った。

項目	内容
参加者入場	映像やマイク、表示名等の諸注意
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
国旗儀礼	司会の指示に従い、国旗儀礼
運営委員長挨拶	中村運営委員長の挨拶
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式

<評価>

司会とスライド切り替え担当の連携が取れており、進行とスライドにずれは生じなかった。前日の通し練習を何度か行ったことで円滑に開会式を進行できたと考える。また、Slackのハドルミーティングを運営委員間で繋いで連携も取れており、スムーズな進行ができた。

<反省>

国旗儀礼と運営委員長挨拶の間に連盟歌静聴を予定していたが、連盟歌が流れないトラブルが発生した。当日の最終確認の不足が原因であると考え。

ZOOMの表示名は変更できていても背景が変更できていないスカウトが見られた。表示名の変え方は記載していたが、背景の変え方を記載していなかったために発生した事態だと考える。

<改善点>

当日のリハーサルで使用するスライドを使用し、連盟歌が流れるかを確認する。また、背景の変更方法を事前に伝えるとともに当日もコメントなどで変え方を記載する。

妄想自己紹介

<内容>

当日のグループに分かれて「もしも話」を取り入れながら自己紹介をする「妄想自己紹介」を行った。「もしも話」の内容は、「あなたは現在あなたが住んでいる都道府県の知事です。ある日、県に500万円寄付されました。あなたはこの500万円をどのように使いますか?」とした。当日のグループに分かれてグループ内で顔合わせをした。妄想自己紹介に関しては「地域社会に対してどうする?」という今回のフォーラムに関連したお題で妄想自己紹介をすることで今後の内容の導入とした。

<評価>

一人ひとりの発言の機会を作り、顔合わせをすることができた。また、ブレイクアウトルームの練習にもなったと考える。内容に関して、知事としてお金をどう使うかを考えてもらうことで地域社会を考える導入となった。

<反省>

お題について各自で考える時間を取る必要があったため、時間が足りなかったと感じるところがあった。また、内容が少し固かったので緊張をほぐせていないように感じた。

<改善点>

スカウトたちの緊張をほぐすためにゲーム性を持たせた気軽なものも考える。

基調講演

<講師>

特定非営利活動法人(NPO法人)こうべユースネット 理事長
辻 幸志(つじ こうじ)氏



<内容>

時間	内容	詳細
19:00	基調講演開始	講演者自己紹介 ボーイスカウト関係者との出会い
19:05	活動紹介	NPO法人こうべこうべユースネットについて ・活動のねらい（コンセプト） ・施設運営 ・居場所づくりについて
19:30	フォーラム当日に向けて	・青少年活動（団体）の現状について ・地域特有の課題とは ・高校生年代が考える居場所

グループワーク

<内容>

当日と同じグループに分かれてグループワークを行った。グループワークの内容としてはまず、講演を聞いて思ったことや学びになったことの共有を行った。その後、基調講演の内容を受けて辻様に質問したいことを各グループで一つずつ考えた。そしてグループワーク後に直接スカウトの口から辻様に質疑応答をする時間を設けた。実際に質疑応答を行ったのは運営委員が質問内容によって選抜した5グループであった。グループワークの形態としてはZOOM内でブレイクアウトルームに分かれて行き、各グループには当日と同じ担当のファシリテーターを1人ずつ配置した。

<評価>

基調講演の内容をグループ内で共有することで、質問内容の質をあげられた点は評価できる。また、話し合いの内容をファシリテーターがメモを取り画面共有をしながらグループワークを進めることができた。

<反省>

ファシリテーターへの共有不足で、ファシリテーターが中心となって会話が進行しているグループが複数見られた。

<改善点>

事前にファシリテーターに役割の共有をする。

閉会式

項目	内容
閉会式	司会が開式の言葉を述べ開式
運営委員長総括	中村運営委員長の総括
国旗儀礼	司会の指示に従い、国旗儀礼
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式
解散	解散後に当日についての質疑応答

<評価>

式は式次第通りに進行した。司会とスライド切り替え担当の連携が取れており、進行とスライドのずれは生じなかった。これは、前日の通し練習を何度も行った点が良かった。また、解散後の質疑応答についてもSlackのハドルミーティングを運営委員間でつないで連携も取れていた。

<反省>

閉会後に行った当日に関する質疑応答にて、質問内容の想定や誰がどの種類の質問に対応するのかをきめておらず、回答するまでに時間を要したためあらかじめ決めておくべきだったと考える。



<改善点>

質問内容の想定や誰がどの種類の質問に対応するのかを決めておく。

3. フォーラム

日程表

	第1研修室	第2,3研修室	成人食堂	青少年広場	その他
	11月2日(土)		11月3日(日)		11月4日(月)
時間	内容		内容		内容
6:00			起床(6:00)		起床(6:00)
7:00			起床(6:00)		朝礼 (7:00~7:05)
7:05					点検、清掃 (7:05~7:55)
7:10			朝礼 (7:10~7:15)		
7:15			モーニングゲーム (7:15~7:45)		
8:00			朝食 (8:00~8:50)		朝食 (8:00~8:45)
9:00			県フォーラム報告会 (9:00~9:50)		全体会 (9:05~10:50)
10:00			分科会1 (10:00~10:50)		
11:00	新神戸駅集合 (11:00)		分科会2 (11:00~11:50)		
11:25					集合写真 (11:30~11:35)
11:30					自由時間 (11:35~11:55)
11:35					
12:00	会場へバスで移動		昼食 (12:00~12:45)		解散
13:00	受付 (13:00~13:10)		分科会3 (13:00~13:50)		
13:25	開会式 (13:25~13:35)				
13:45	オリエンテーション (13:45~14:00)		分科会4 (14:00~16:50)		
14:00	自己紹介タイム (14:20~14:50)				
14:20	ワークショップ① (15:15~17:05)		分科会5 (17:00~17:50)		
15:00	ワークショップ② (18:10~19:05)				
17:00	夕食 (17:15~18:00)		議長会 (17:00~18:15)		
17:15			夕食 (18:00~18:50)		
18:00	ワークショップ② (18:10~19:05)		交流会 (19:00~19:30)		
18:10	集合写真 (19:05~19:18)				
19:00	交流会 (19:20~19:40)				
19:05			入浴 (前半19:50~20:25) (後半20:25~21:00)		
19:20	入浴 (前半19:50~20:25) (後半20:25~21:00)				
19:50	就寝準備		就寝準備		
21:00	消灯		消灯		
21:30					

1日目

集合場所

新神戸駅 路線バス乗降場前の広場



<集合について>

大雨の影響で、新幹線と在来線に最大2時間程度の遅れが発生していた。

代表スカウトは新神戸駅から大型バス2台で会場へ向かった。

1台目は11:30頃、2台目は14:00頃新神戸駅を出発した。

当初の出発時間の想定は2台目が11:30であったが、記載の通りに遅延が発生していたので1時間30分遅れでの出発となった。

14:00出発に間に合わなかったスカウトは支援委員の配車によって会場へ向かった。

開会式

<内容>

項目	内容
集合	グループごとに縦列で集合
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
国旗儀礼	国旗に正対し、川瀬プログラム委員長の発声に合わせて「礼」
連盟歌斉唱	指揮に合わせて斉唱
主催者挨拶	川瀬プログラム委員長の挨拶
運営委員長挨拶	中村運営委員長の挨拶
スタッフ紹介	運営委員が部門ごとに挨拶後、日本連盟プログラム委員の紹介
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式 解散と次のプログラムのオリエンテーションについて指示



<評価>

悪天候による公共交通機関の遅延によってスカウトの到着に遅れが生じ、予定開始時刻の13:20よりも5分遅れての開始となったが、式はトラブルなく円滑に進められた。開会式には30分かかると想定されていたが10分で終了したため、余裕を持った時間設定で時間が押してしまうという影響が無かった。しかし実際の時間を想定し切れていない点では準備不足であったと考える。また、悪天候の際には青年食堂を使用する予定だったが、会場を第2,3講義室に変更したためスカウトの動線をより簡潔にすることができた。

<反省>

予行練習の際に時間を計って行う等の工夫が足りていなかった。また、開会式の会場を急に変更したために会場のレイアウトやアイスブレイクの準備等も変更させることになってしまった。

<改善点>

準備では実際の時間と合わせるためにリハーサルを行う際には事前に確認すべきことをリストアップする。当日では、悪天候時の会場を選ぶ際には柔軟に考え会場選定することや本来予定しているものに拘らずに対応することが必要である。

オリエンテーション

<内容>

運営委員より、施設の利用上の注意事項と期間中の生活ルールの説明を行った。

<評価>

悪天候により屋外で予定していたものを屋内に変更した。公共交通機関の遅延により会場に到着していないスカウトについては、会場に向かうバスで、同乗している運営委員よりオリエンテーションを行った。

その他、支援委員の車で会場に向かったスカウトについては、会場到着後に各グループのファシリテーターやメンバーからオリエンテーションの内容を伝えてもらった。会場でのオリエンテーションは予定していた時間内に収めることができ、内容について質疑応答の時間も取ることができた。



<反省>

オリエンテーションの内容を常に説明できる状態にしていなかったため、共有が遅れが出たと考える。

<改善点>

オリエンテーション内容などは事前に運営委員内で共有する。また、内容を簡潔にまとめておき伝達できる形で準備しておく。

自己紹介タイム（アイスブレイク）

<目的>

グループ内の自己紹介を行い仲を深めることで、後に行われるワークショップ等の話し合いをより活発に行えるようにする。

<内容>

グループに分かれ、「グループ紹介の新聞作成」を行った。これには、スカウトの自己紹介とグループ内のスカウト全員に共通する点を書いた。共通する点は5個以上見つけることを目標としたほか、各グループのオリジナルトピックやイラストなども自由に描いた。自己紹介タイム終了後は会場内に新聞を掲示するだけの予定であったが、急遽書き足せるように変更した。

<評価>

予定していた時間に終わることが出来た。共通点探しゲームを取り入れることで自然とグループ内の会話が増え、メンバーのことをよく知れる機会となった。作成した新聞を会場に掲示することで、スカウトや運営委員といったスタッフが各グループまたはスカウト個人の個性を知るきっかけとなった。また、新聞を自己紹介タイム終了後も書き足せるようにしたことで、新聞を掲示した場所がスカウトの交流の場となり、休憩時間や早く昼食を食べ終わって空いている時間を有効活用することが出来た。

<反省>

当初の予定よりも自己紹介タイムの時間が10分延長された状態で行われたが、時間内に新聞を完成させられなかったグループがあった。

<改善点>

考えた企画内容がどのくらい時間のかかるものか見極め、予定されている時間内に収まるか慎重に検討する必要がある。



ワークショップ①②

<講師>

特定非営利活動法人(NPO法人)シミンズシーズ 代表理事
柏木 登起(かしわぎ とき)氏



<内容>

ワークショップ①では下記の項目を実施した。

時間	内容	詳細
15:15	基調講演者自己紹介	
15:25	話題の提供	
15:40	セッション① 地域を見る・考える (自分の住んでいる地域について話す)	・地域の規模感 ・地域の特徴
16:05	講義	・会話/対話/議論の違い ・より良い対話のために
16:20	セッション② その地域にはどんな課題があるか考える。	・模造紙、付箋、マジックを用いて地域の規模やその地域の困りごと(課題)について考えた。(グループワーク)
16:45	全体のまとめ	

ワークショップ②では下記の項目を実施した。

時間	内容	詳細
18:00	チェックイン	・「30サークルズ」(ワークシート)を用いて、イノベーションに成功するものは右脳と左脳の両方を使うことを示した。
18:10	セッション③ 解決策を考えてみる。	・地域の困りごととにどんなアプローチやかかわりができるか、どんな取り組み方法があるのか模造紙とマジックを用いてグループごとに考えた。

<評価>

先に来たスカウトが遅れて来たスカウトに内容の説明をし、スカウト同士でフォローし合っていた。交通トラブルは想定外だったが、スカウトたちが自分たちで対処している様子が見えた。対話、会話、議論の違いについて、柏木さんにスカウトたちに体験して知ってもらいたいという意図があり、実際に体験して学ぶことができていた。個人作業後のグループ内共有の時間においては、自分の意見をグループ内のスカウトに伝えることがで



きていた。聞く側も傾聴の姿勢ができていた。グループワークでは、模造紙と付箋を用いたことで、翌日の分科会の練習になった。

<反省>

ファシリテーターの役割を説明していなかったことで、ファシリテーターの目を気にして話し合いを進めてしまっていた。自己紹介タイムから参加できていないスカウトもいたため、緊張して話せなかったスカウトもいた。

<改善点>

ファシリテーターの役割を説明しなかったこともあり、失敗を恐れて発言を避けているスカウトがいたため、ファシリテーターの役割についてスカウトに伝えておくべきであった。また、話し合いの場で話し合いに参加できないスカウトもいたため、分科会では全員が自分の意見を主張できるような雰囲気づくりをする工夫が必要だと考えた。



交流会

<目的>

グループに囚われず多くのスカウトと交流し、顔見知りのスカウトを増やす。

<内容>

「塩・こしょうゲーム」を行った。自身には見えていないキーワードを当てるために周囲に「はい」か「いいえ」で答えられる質問を繰り返し、自身のキーワードを予測出来たら、自身のキーワードとペアに指定されているキーワードを持つ人を見つける、というゲームを行った。また、時間が10分程余ったため、「誕生日順に並ぶ」というテーマで「サイレントゲーム」も行った。

<評価>

とても盛り上がり、良い雰囲気だった。この交流会は、グループに関係なくスカウト同士が交流することを目的としていたため、多くの人に話しかけ質問をしないとクリア出来ないゲームを行うことで達成できたと考える。また、ゲームに運営委員も参加することでスカウトと運営委員の仲を深めることにも繋がった。

<反省>

自己紹介を行わずにゲームを行ったため、相手のことを知らずにゲームが進んだ。相手のことをより深く知るための工夫が足りていなかったと考える。

<改善点>

交流を目的とするプログラムでは自己紹介を設けるようにする。



2日目

朝礼

<内容>

項目	内容
集合	グループごとにU字型で集合
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
国旗掲揚	国旗に正対し、中村運営委員長の発声に合わせて掲揚
ソング	「この道を行く」指揮に合わせて斉唱
朝の言葉	梶井副運営委員長より
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式 解散と次のモーニングゲームについて指示

<評価>

集合に時間がかかることを見越して少し早い時間に集合の指示を出したため、時間通りに朝礼を始めることが出来た。運営委員がそれぞれ担当する項目を十分に練習していたため、朝礼は円滑に進んだ。



<反省>

スカウトの集合はU字型で行ったが、綺麗なU字型が出来ていなかったため、途中から運営委員が声掛けを行った。その結果、集合にかなり時間がかかってしまっていた。朝礼のソングにおいては、歌う曲を事前にスカウトに共有していなかったため、曲を知らず歌えていないスカウトがいた。

<改善点>

大人数でU字型を行うのは時間がかかることを予め予想し、集合時間を早めるだけでなく、運営委員の中で列を正す役回りの人を配置する等の、集合がスムーズに行えるような対策をする。式でのソングは事前に共有し、参加スカウトが斉唱できるようにする。

モーニングゲーム

<目的>

朝から頭を使うゲームを行い、眠気から目と頭を覚ますことで2日目に行われる分科会等を気持ちよく始められるようにする。



<内容>

「概念ジェスチャーゲーム」

「重い」「早い」などの形容詞のお題が入った袋を運営委員が持ち、グループの中から1人が袋の中からお題を引き、その形容詞を表すジェスチャーをして、当てられたら次のスカウトがお題を引いてジェスチャーをする。これを繰り返し、パスは2回までで時間内に一番多く回答できたグループが勝ち。



<評価>

朝から頭と体を楽しく使うことができた。また、ファシリテーターも含めグループ内での交流も図ることができた。概念ジェスチャーゲームは普通のジェスチャーゲームとは違い、新鮮で、スカウトもゲームを持ち帰ることができたのではないかと考える。

<反省>

モーニングゲームとしてはゲーム時間が少し長かった。

<改善点>

時間配分を調整し、モーニングゲームの適正時間で実施する。

県フォーラム報告会

<内容>

県フォーラムの内容を事前課題としてフォーラムまでにまとめ、県フォーラム報告会にてグループ内での発表を行い、お互いの地域社会の現状を知った。

<評価>

当日の発表時間を理解しているスカウトが少なく、長い時間での発表を想定したものを準備しているスカウトが多くみられた。発表時間が短い原因として、当初の想定よりもグループ人数が多くなったことがあげられる。事前に各県の発表内容が分かっていたら3分でも良かったと思うが、何も知らない状態の3分は無理があった。

<反省>

準備段階で運営委員が発表する県代表スカウトの視点で行えていなかったために発表時間の周知不足があった。また、当日は各班での人数が多くなったことで発表時間を短くする必要があった。

<改善点>

発表を円滑にするため、事前に各県の報告を回収し1つのデバイスにまとめる等の工夫を行う。発表者側の視点になり発表時間等を周知しておく。



分科会1

<目的>

フォーラムに対する基礎知識をつけ、全体の足並みを揃える。

<内容>

はじめに2日目の全体スケジュールの説明をした。次にスカウトフォーラムについての認識を揃えるため、スカウトフォーラムの実施目的、一連の流れ、進め方、グラウンドルールの説明を改めて行った。その後、各グループでオリジナルグラウンドルール作成、担当決め、テーマの深掘りについてグループワークを実施した。

<評価>

フォーラムとは何か、目的、流れについて、再確認を行うことができた。各グループごとに個性のあるオリジナルグラウンドルールを作ることができていた。担当決めに関しては、事前に役職の提示はしなかったが、円滑にオリジナルティのある役割分担を行うことができた。さらに、テーマに対しての深掘りができており、事前課題やワークショップで得た内容を活かすことが出来ていた。



<反省>

2日目の全体スケジュールについては時間的な流れを説明したものの、各分科会の具体的な内容を提示しなかった。これにより、分科会ごとのゴールや相互のつながり、議論の全体像が伝わっていなかった。その結果として、各分科会の議論が断片的になり、議論の目的を明確に理解できないまま進む状況が生じた。

また、ファシリテーターの役割に関する説明が不足していたため、スカウトたちはファシリテーターの立ち位置が分からず、単に「困ったときに聞く人」という認識になっていた。さらに、スカウトフォーラムとアフターフォーラムアフター（AFA）の違いについて説明が無かったことで、特にAFAに参加したスカウトなどは両者を混同し、混乱させてしまった。グランドルールの作成においては、グループごとのオリジナルルールを5個に定めたことで、ルール作成に予想以上の時間を要してしまった。グループごとにルールの数を任せることで、テーマの深掘りにより多くの時間を割くことができた。また、グランドルールを考えたものの、実行できていないグループが多く見られた。原因として、グランドルールが記載してある手引きを議論中は片づけるため、忘れてしまったことが挙げられる。議論中も常に目に入るよう、グランドルールを記載する用紙を用意すべきであった。



<改善点>

冒頭において、各分科会の内容やつながりやファシリテーターの役割、SFとAFAの違いなど、より詳細な説明を行う。また、グランドルールに関して、ルールの個数は指定せず各グループに委ね、グランドルールを常に見えるところに提示しておく。

分科会2

<目的>

地域課題を列挙し、それらの原因を考えながら細分化したものを整理する事で多様な地域課題の原因を明確化し関係性を理解する。

<内容>

事前集会、事前課題、ワークショップ等を振り返り地域の課題をポストイットに記入した。その後、グループごとに取り組む地域課題を絞り、課題となっている原因を多角的な視点から考えた。また、出てきた原因についてさらにその原因まで追求することで地域課題の深掘りを行い、最終的に模造紙を使いそれらの関係性をまとめた。

<評価>

前日のワークショップや県フォーラム報告会を終えた後であったため、ある程度地域課題の解像度が鮮明であり原因を考える事が容易であった。さらに、原因の深掘りの段階が参加スカウトの興味へつながり、それが分科会のモチベーションになっていた。また、課題の原因について深掘りや整理を行った結果、人や地域との交流が少ないという多くの地域課題に共通する原因をスカウトが見つかることができた事は評価出来る。

<反省>

また、当日はファシリテーター全体で集まる時間の確保が難しく、分科会2の進め方についての共通認識が十分ではなかった。その結果、グループによってファシリテーターが過度に介入する場面や、グループでの議論の進行度合に差が出てしまった。

<改善点>

分科会2の時間は多角的な視点が必要だったこと、後の提言文作成に向けてある程度全体でのまとめ感が必要であることから、グループごとで意見共有の時間を確保する。



分科会3

<目的>

列挙した課題を整理し取り組む課題の方向性を定める。

<内容>

分科会2で考えた地域課題に対して提言文の作成に向けてどの課題に取り組むべきか、各グループで評価軸を決めた上で優先順位を決めた。



<評価>

各班で何を評価の軸とするのかを話し合い、優先順位をつけることでこれまでの分科会で出た意見を整理できた。また、その結果、どの課題に取り組むかの方向性を各班で決める事が出来た。

<反省>

取り組むべき課題について、課題の優先順位という言葉を使用したために今解決すべき課題と認識するスカウトが見られ、本来の目的とずれる点があった。評価軸を決める際に多くの意見があり、軸となるキーワードの選定に難しさがあったのではないかと考える。また、昼食後で疲れが出ることを十分に想定できておらず、それを踏まえたタイムスケジュールの作成が出来ていなかった。

<改善点>

優先順位をつける必要性や具体的な方法についてなど、分科会3ですべきことをより詳しくファシリテーター内で共有する。



分科会4

<目的>

分科会4では、分科会1～3までの各グループでの議論を基にグループ間で意見を交換し、自分達のグループの意見をもう一度考え直し、提言文を決め、その意見をもとに議長団を選出する。

<内容>

最初の時間は他グループと意見交換できるようにグループ内の意見をまとめ、その後ワールドカフェ形式で他のグループと意見交換を一度行い、他グループの意見を参考にそれぞれ、グループの意見を提言文にまとめた。各グループの1名が自分のグループで意見交換を行い、その他のメンバーはそれぞれ他グループへ移動し意見交換に参加した。

<評価>

評価すべき点は、ワールドカフェ形式の議論を通じて多様な意見に触れることで、その後の議論が活性化し、個々の考えを集約してより良い提言文を作成できた点である。また、グループから議長を選出する際も「司会だから議長になればいい」という安易な決め方ではなく、代表者としてふさわしい人を慎重に選ぶことが出来た。

<反省>

当初はワールドカフェを2回行う予定であったが、分科会3までの内容がまとまらず、分科会4の冒頭にまとめを行う時間を新たに設けたため、ワールドカフェを行う回数を1回に変更した。これにより、スケジュールが大幅に変更されたが、ファシリテーター間で変更に関わる情報共有が十分に行われなかったため、スカウトからスケジュールを尋ねられた際に明確な回答ができなかった。また、疲労により集中力が欠けているスカウトもあり、その影響で提言文の説明が十分に理解できていないスカウトがいた。

<改善点>

急な変更にも対応できるようにするため、最初から時間に余裕のあるスケジュールと時間が押してしまった時のスケジュールを用意する。ファシリテーターの情報共有を円滑に行うためのシステム作りをする。



分科会5

<目的>

PDCAサイクルを理解することで、自分達が普段行っている活動は循環しており、C（チェック）とA（アクション）の重要性を伝え、PDCAサイクルを意識して活動に取り組めるようにする。

<内容>

最初の10分にPDCAサイクルがどんなものなのか運営委員からプレゼン形式で説明を行い、個人ワークという形で自分が普段行っている活動を当てはめて考えた。個人ワーク後にグループ内で発表を行い他の人の意見を聞きさらにPDCAサイクルへの理解を深める。



<評価>

分科会5では、PDCAサイクルの説明からスタートし、自分の活動に当てはめるという構成がスムーズで、参加者が取り組みやすい内容であった。スライドやビジュアル資料も効果的に活用されていた。個人ワークの導入は、参加者が自分自身の考えを深める良い機会となり、集中して書き込む様子が見られた。また、PDCAサイクルを特定の活動（ボーイスカウトなど）に限定せずに幅広い視点で考えさせたことで、参加

者の視野が広がった。全体として、参加者がスムーズにPDCAサイクルの要点を理解し、自分の活動に当てはめて考えられる時間が確保できた。

<反省>

個人ワークの時間が不十分であったため、考えを深める余裕が不足していた。後半では一部の参加者が集中力を欠く場面も見られ、グループごとの進行状況に差が出ていた。特に、ファシリテーターがいないグループでは進め方に迷いが生じる場面があり、サポート不足が課題であった。



また、資料については、PDCAサイクルを「循環」として理解させるために、両面印刷や2枚構成にするなど、補足的な工夫が必要であった。また、「チェック (C)」と「アクション (A)」の違いや詳細な説明が不足していたため、理解が浅くなった参加者も見受けられた。

さらに、個人ワークの際に「周りと話さずに進める」というルールが、困ったときのサポートを制限する結果になり、一部の参加者にとってマイナスであった。グループでの発表時間も短かったため、全員が十分に発言する機会を持てなかったことも課題として挙げられる。

<改善点>

PDCAサイクルの循環を強調するために、裏表印刷や2枚構成の資料を作成し、「C (チェック)」と「A (アクション)」の違いを具体例を用い分かりやすく説明した内容を追加。個人ワークを省略し、最初からグループワークを中心に据えるとともに、パスタタワーのような簡単な実践的アクティビティを導入。また、グループワークや発表時間を十分に確保するために時間配分を見直し、各グループにはファシリテーターを配置して進行を支援し、質問や相談がしやすい環境を整備する。

議長団会議

<内容>

各グループから選出された代表者11名で議長団会議を行った。分科会4にて作成した宣言文の仮案を持ち寄った。各グループで出た提言文やキーワードなどを模造紙、ホワイトボードに書き出した。様々な意見の共通点を探したり、分科会1~4の内容の振り返りを行ったりすることで、ベンチャースカウトにできること、やるべきことに焦点を当てて話し合いを進めた。最終的に11名の中から5名の代表を決めて議長団が提言文の素案を作成した。

<評価>

会議内での役割を選定するところからスカウトが主体的に話し合いを進めていた。また共通点を探すときや自分たちにできることを考えるときには、分科会での各グループの話し合いや基調講演の内容を振り返りながら議論できていた。



<反省>

改めて議長団会議内での役割を決める際に多くの時間を使ってしまったため、もっと冒頭で運営側から指示をするべきだった。また時間配分についてももっと運営側から声掛けを行うことでスムーズな進行ができたと考える。また、11グループの提言文 (案) をまとめる際にはじめはほとんど口を出さず見守る形だったが、キーワードの見つけ方や話の深め方等より多くの助言が出来たらよかった。各グループから議長団を選出する方法であったために議長団が11人となり話し合いをまとめることが難しかった。そのため、議長団から議長団議長を行いたいスカウトが立候補し5人にした。

<改善点>

議長団会議の人数についてはあらかじめ懸念していたため、分科会の中でグループを統合するなどして代表者の人数をあらかじめ少なくする対策をする。

交流会

<目的>

グループに囚われず、多くのスカウトとお土産を用いて交流をする。

<内容>

「猛獣狩りに行こうよ」という、ゲームマスターが言った動物の名前の文字数と同じ人数のグループを作るゲームを繰り返し行い、その都度出来たグループ内で簡単な自己紹介とスカウトが持参したお土産の交換会を行った。また、全国スカウトフォーラムの期間に誕生日を迎えるスカウトがいたため、サプライズでハッピーバースデーを全員で歌った。

<評価>

とても盛り上がり、スカウトの楽しそうな様子が伺えた。1日目の交流会の反省点を活かして自己紹介を取り入れたことで、スカウト同士の交流も活発に出来ていた。準備段階では、会場には机を一切用意しない予定であったが、荷物を置く用に机はあった方がよいとのアドバイスを当日に受けたため用意することにした。結果、スカウトの上着やお土産等を置くことが出来、有効活用ができた。

<反省>

お土産の交換会を始めてすぐ一部のスカウトが交換したお菓子類を食べ始めたため、改めてプログラム中はお菓子を食べてはいけないという説明を冒頭に入れるべきだった。

<改善点>

交流会を行うに当たってスカウトの行動を予想し、それに沿った説明を行えるようにする。



3日目

朝礼

<内容>

項目	内容
集合	グループごとにU字型で集合
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
国旗掲揚	国旗に正対し、中村運営委員長の発声に合わせて掲揚
ソング	「平和の騎士」指揮に合わせて斉唱
朝の言葉	守田副運営委員長より
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式 解散と次のモーニングゲームについて指示

<評価>

運営委員がそれぞれ担当する項目を十分に練習していたため、朝礼は円滑に進んだ。

2日目の朝礼を踏まえ、2日目の交流会で3日目の朝礼で歌うソング名を伝えたが、歌えていたスカウトは少なかった。

また、2日目の朝礼でU字型に並んでいる様子を上空から撮影した映像を全体会で見せていたため、2日目より意識して並べていた。



<反省>

ソングの記載をしていなかったの
で、参加の手引きにソングを載せてお
くなどの配慮をすることで、多くのス
カウトが歌いやすい環境を作るべきで
あった。

<改善点>

ソングの歌詞を参加の手引きに載せ
ておき、スカウトが練習できる状態に
する。

全体会

<目的>

議長団会議で作成された提言文を全体で共有し、質疑応答の時間を通して参加スカウト全体で最終的な第25回全国スカウトフォーラムの提言文を作成する。
参加スカウトが各県でアフターフォーラムをする際にきちんと提言文の説明が出来るように提言文についての疑問点などを解消する。

<内容>

2日目に選出された議長団の中から選ばれた5人の代表が前に立ち、会議で作成した提言文を議長から全体に向けて発表し、この提言文に至った経緯を説明した。その後、提言文の内容で分からなかった所などについて質疑応答を行い、提言文の理解を深める時間となった。

<評価>

全体会の冒頭に今一度、参加スカウトは県の代表であり、全国フォーラム終了後、各県で提言文の説明をする必要がある事を伝えた。その結果、スカウト全員が集中して全体会の時間に望め、提言文をより良い物にしようとする積極的に発言し聞く姿勢が見られた。また、質疑応答が提言文と関係ない話題になると、議長をはじめとした議長団が話し合いの内容を戻すなど、うまく全体会の場をコントロールしようとしていたことも評価出来る。

<反省>

全体会は参加スカウトたち主体であるべきだが時々ファシリテーターの顔色を伺ってしまうスカウトや、例年よりも大幅に参加スカウトが増えたことで発言したくても出来ないスカウトが見受けられた。提言文の文言は基本的に変更しないと事前に議長団のスカウトへ伝えていたが、その結果参加スカウト全体で提言文を作成したという雰囲気や提言文への納得感が少し欠けてしまった。

<改善点>

1人1人の提言文についての理解をより深めるため、提言文の説明をした後グループで話し合い疑問点などを洗い出す時間を設け、提言文についてメモを取る用紙を作成する。また、参加スカウトが主体となる全体会とするために会場の配置についてスカウトとファシリテーターの位置が離れる様な配置にする。



閉会式

<内容>

項目	内容
集合	グループごとにU字型で集合
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
フォーラム宣言発表	議長団で議長を務めた大阪連盟 平岡スカウトが、全体会において決定したフォーラム宣言を発表
運営委員長総括	中村運営委員長の総括
主催者挨拶	川瀬プログラム委員長の講評
ソング	『光の道』を指揮に合わせて斉唱
国旗降納	国旗に正対し、川瀬プログラム委員長の発声に合わせて国旗降納
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式 解散とその後の動きを指示



<評価>

全体会が延びたため遅れての開式となったが、時間配分に余裕があったことから計画していた時間内に閉式した。フォーラム宣言発表では、事前に議長団議長を務めるスカウトとリハーサルを行ったため、滞りなく進行することが出来た。また、ソングを始める直前に指揮者が大きな声で歌うように声掛けを行ったことで、このスカウトフォーラム中で最も大きな歌声を聞くことが出来た。

<反省>

事前に閉会式までに制服を正しく着用するように全体の前で指示を出していたが、制服が正しくないスカウトが何名かいたことである。そのため、閉会式の直前になってベルトを急遽貸し出す等の対応を行うこととなった。

<改善案>

正しい制服について口頭で指示するだけでなく、点検などでスカウトの制服が正しい状態であるか確認する時間を設ける。



4. フォーラムでの生活について

<内容>

フォーラム期間中、会場内での移動や食事は、原則グループで行動をした。生活ルールやタイムスケジュールは参加の手引きに記載をし、各プログラム終了時に運営委員から、今後の予定や変更点を共有した。スカウトの宿泊部屋は、25人前後で1部屋を使用した(男性スカウト2部屋、女性スカウト1部屋 計3部屋)。



<評価>

今回、会場の敷地が広く、宿泊棟や研修室など、それぞれに距離があったが、各グループのファシリテーターが初日の移動で先導をして場所を案内したことから、期間中、会場内で迷子になるスカウトはほとんどいなかった。

<反省>

宿泊部屋に関して、スカウトが使用する施設貸出の布団セットに一部不足があったことが、最終日の部屋点検時に分かった。初日に施設から貸し出しされている備品に不足が無いのか、運営委員で確認する必要がある。

<改善点>

初日のオリエンテーション以外でも、生活ルールの確認や、生活面での困りごとが無いか聞く時間を作る。



5. フォーラム提言文



提言文

25th 
SCOUT FORUM

きっかけをつくれるVSが先陣を切る！！
身のまわりの人を巻き込み、
“地域をよりよくする意識を0から1へ”

Scout Association of Japan

1行目：きっかけをつくれるVSが先陣を切る！！

みなさんベンチャースカウトが出来る事は主体的にプロジェクトを起こし活動を行うこと、つまりきっかけを作ることであると考え、そんなベンチャースカウトが率先して活動を起こして欲しいという思いを込めている。

2行目：身のまわりの人を巻き込み

地域に存在する課題の原因を考えた所、人とのつながりが希薄であるという声が多く上がった。そこで個人で完結するプロジェクトではなく自分の手が届く範囲で身の回りの人を巻き込みながらプロジェクトを行う事で活動を通して人との繋がりを広げることとした。

3行目：“地域をよりよくする意識を0から1へ”

全国に数多く存在している地域課題の中で特定の1つに限定して取り組むことは地域によって課題が異なる点で難しい。また、地域課題を本当に解決出来るのか考えると厳しい所もあるため、まずは今より少しでも良い状態を目指す意識を作る事が大切だと考えた。よって今ある現状を0として、みなさんの身の回りの方の地域をより良くする意識を作っていくために何が出来るのかを考え行動を起こすことを目的とした。

6. 事後配布資料

<目的>

参加スカウトがPDCAサイクルの理解を深められるようにする。また、全国スカウトフォーラム実施の約1か月後（目安）に振り返りを含む事後配布資料を配布することで、内容を思い起こせるようにする。さらに、運営委員が全国スカウトフォーラムにおいてスカウトに期待する実際のアクションプランの検討（PDCAサイクルの練習）を事後配布資料の内容に盛り込み、知識としてアクションを起こすプロセスやその手助けとなる情報を掲載することで、全国スカウトフォーラム後にスカウトがアクションを起こせる一助となるようにする。

<概要>

- ・ 第25回全国スカウトフォーラム全体の振り返り
 - ・ 基調講演の内容振り返り
 - ・ 議論の流れ
 - ・ 提言文とそれに至った経緯

- ・ フォーラム提言文を基にしたプロジェクトの進め方
 - ・ PDCAサイクルとは
 - ・ フォーラム提言文を基にしたPDCAサイクルの各ステップ

- ・ 社会のニーズに基づいたボーイスカウトのプログラム例
 - ・ Earth Tribe（アーストライブ）
 - ・ Scouts for SDGs
 - ・ メッセンジャーズ・オブ・ピース（MoP）

詳しくは別紙参照

7. アンケートの結果

アンケートは事前集会・各日の最後に行った。参加者の声は一部抜粋

事前集会

基調講演について



参加者の声

社会を生きる上で、より良い社会を作る一員として大事なことを学べたから。

サードプレイスなど、自分たちの身の回りにも関わる話で、多くの共感や学びを感じたため。

私の経験に無いお話や、これから行っていくスカウト活動に役立つ事などが聞けて有意義な講演でした。

地域社会とのつながりを意識して活動している団体の活動方針や地域と連携した活動の例を知れたから。

「開催は一度だけでは意味がなく継続的に場所を開くことで顔見知りになれる。そうして悩みを共有することで新しい意見を生み出せる。」という意見を持ったが、これは全国フォーラムで行うそれぞれの県の問題点を持ち寄って解決策を話し合うという形態にとっても似ていると感じ、話し合いの意義を学ぶことができた。

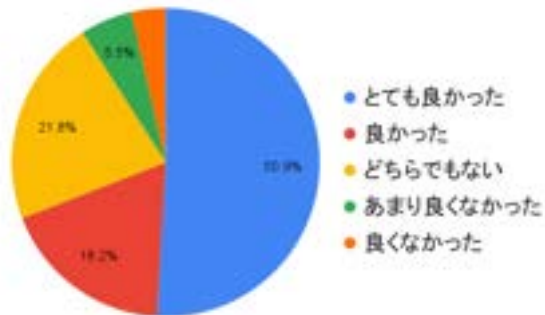
サードプレイスやユースワーカーなど地区、県のフォーラムで話題に上がらなかったことについて話を聞くことが出来て勉強になりました。

貴重なお話を聞けて今後の計画の参考になりました。

運営委員長コメント

県フォーラムでは話題とならなかったことやスカウトにとって知る機会が少なかった地域社会への取り組み事例のため、多くのスカウトが新しい知識を得ることができたという回答があり、多くの知識を得るという目的に合っていたと感じる。

グループワーク



参加者の声

グループの1人がアドバイスをしてくれたおかげで、ワールドカフェのような雰囲気グループワークができたから。

知らない人たち、違う都道府県の人たちと話すことが出来、よかった。

初めてのグループでの活動でしたが、良く話し合いができていた。

進んで自分から意見を言うスカウトが多く、滞ることなく意見の交換ができたため。

私はあまり意見を出すことができなかったなと思いました。

緊張したけど、当日はもっと積極的に話したい。

あまり活発に話せなかった。

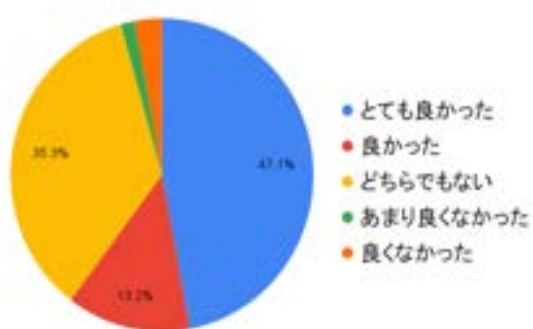
いい雰囲気意見交換ができた。

運営委員長コメント

オンラインでの難しさや電波環境など想定していたよりもVS年代がオンライン環境に慣れていなかった点が見受けられたが、講演を深める時間と当日に向けての顔合わせを行うことができた。各グループ短い時間でもファシリテーションがありながらよく発言していたと感じる。

1日目

開会式



参加者の声

開会式ではみんな揃わなかったけど実際に集まって始まったことを実感した。

いよいよ全国フォーラムが始まったという実感を持てた。

適度な緊張感をもって集中して臨めた。

バスの中での騒がしさから切り替えられたから。

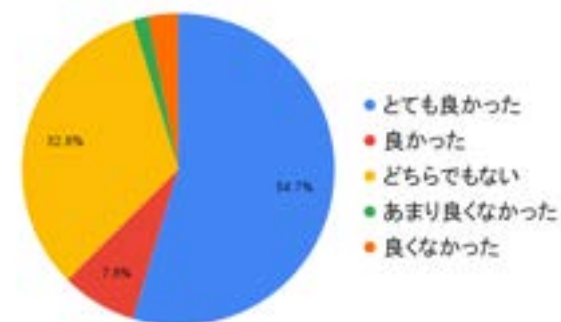
フォーラムが始まるな〜って感じでよかったです。

電車遅延などにより参加出来なかったため。

運営委員長コメント

移動からの切り替えとついに始まるという気持ちをしっかり感じる事ができた感想が多く、式として良いものになった。天候の都合で参加ができなかったスカウトの気持ちを考えると全員が集まるまで待つ方が良かったのではないかと考える。手引きに記載があるがオリエンテーションの形で周知することでみなガルールを共有できたと思う。

アイスブレイク



参加者の声

初めて会う人たちと仲を深めることができた。

人数が少ない中でしたが、その中でも自分のチームだけでなく他のグループとの交友も深めることが出来ました。

もう事前集会で打ち解けていた。

いまいちしっかりと交流できなかった。

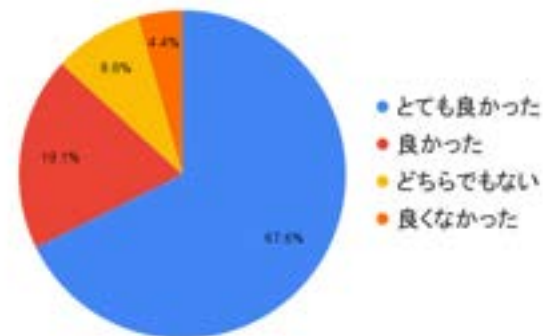
みんなで共通点を探し、話が盛り上がり、それぞれのことについてよくわかったのでわかった。

グループの共通点を見つけるときにグループの人のことを知ることができてとても楽しかった。

運営委員長コメント

新聞づくりであっても各グループの特徴が出ており、自己紹介をしながら共通点を探し1つのものを作ることでグループの中で緊張がほぐれていく様子が見て分かった。参加者の中には事前集会で仲良くなっていたが対面で初めて会い話すことでより距離が縮まったスカウトもいたように感じる。

ワークショップ①



参加者の声

「会話」をすることで、緊張をほぐしその後の話し合いをうまくおこなえたから。基調講話が話術もあり、面白かった。

柏木さんの話を聞いて意見のまとめ方を知り、実践することが出来たから。

自分の知らないところでどんな活動をされているのかなどすることができてよかったです。

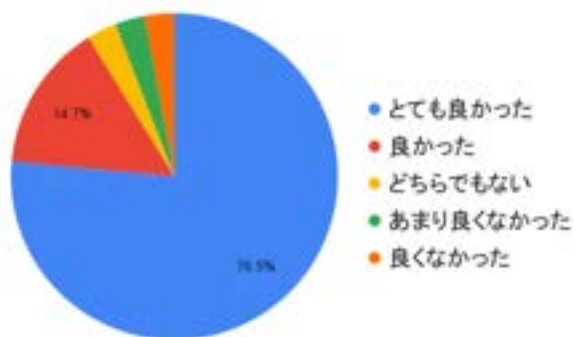
都道府県の良さを知ることが出来た。

新たな考えを知ることができたから。

運営委員長コメント

講演として、知識の点とワークショップとして話し合う点の2点で2日目の分科会に向けてスカウトの緊張がほぐれながら向かうことができたと感じる。参加型にしてくれたことでスカウト達も話に巻き込まれながら取り組むことができた様子があり、とても良かった。

ワークショップ②



参加者の声

自分には無い視点から物事を見ることが出来たから。

兵庫県の事例を元に、地域ではどうだろう、と視野を広げて考えることが出来たから。

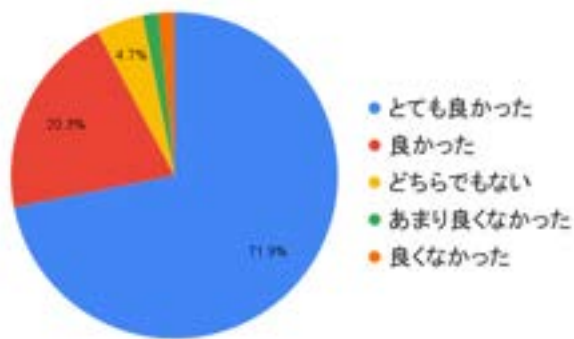
他都道府県の人と多くの対話を繰り返し、自分の常識が周りからは常識じゃなかったりして、多くの学びを得れたため。

それぞれの県の課題や、いいところ、個性を話し合えて楽しかったから。

運営委員長コメント

講演では話し合いや対話について知った上でのワークショップであったため、グループ内で積極的に話を進めることができていたように感じる。ワークショップ①よりもテーマに重なる点が多かったため、テーマに関する地域社会についての理解を深めることができ良かったと思う。

1日目 交流会



参加者の声

難しかったですがペアを見つけることができ楽しかったです。

話したことない人と話さないといけない環境があるおかげで色々な人と話せるようになった為。

話したこともない人、班員ではない人とも繋がれたから。

たくさんの人と交流して、ペアを探すことができ、楽しかった。

他県の方との交流の機会となって楽しかったです。

初めてやるゲームだったけれどいろいろな人と話すことができた。

塩コショウゲームをすることで、初めは緊張していたけれどたくさんの人と打ち解けることが出来ました。

運営委員長コメント

自分のお題が見えない状態で行い、予想しながら80人程度の中からペアを探すため、話したことのないスカウト同士で交流するきっかけになるゲームだった。部屋の中でスカウトたちが入り乱れながら大人数で行うことでより楽しめる交流時間でありとても良かったと感じる。

1日目感想

グループの仲間とたくさん話して、仲良くなれたのでよかった。

明日からは、たくさん発言をして深い話し合いをしたいと思う。

最初は緊張で不安感があったが班の人と打ち解け合い意見の交流をすることが出来たため良いスタートを切れた、明日以降もこの調子で頑張りたい。

最初は緊張していたが打ち解けて活動をすることが出来ていたから。

皆んな遠くから来ていて疲れているはずなのにパワーがみなぎっていてさすがだなと思った。明日も負けずにスライド発表頑張りたい。

初めは緊張したけど、各県のことを尊重し合いながら仲良くなれたのでよかった。

共通点や相違点が面白い！

他都道府県の方との対話や基調講演を通し、多くの学びを得られたため、これを明日の分科会や、これからに活かしたい。

グループのみんなが積極的に意見を出していたので良かったです。

途中参加で戸惑うところも多かったが、後半は楽しくコミュニケーションをとれてよかった。

2日目

モーニングゲーム



参加者の声

体を動かせるし、班のみんなと遊べるからとても面白い。

難しかったけれど頭を使うゲームで楽しかった。

すっかり仲良くなった班員とゲームができてとても楽しかった。

形容詞のジェスチャーは難しかったが楽しかった。

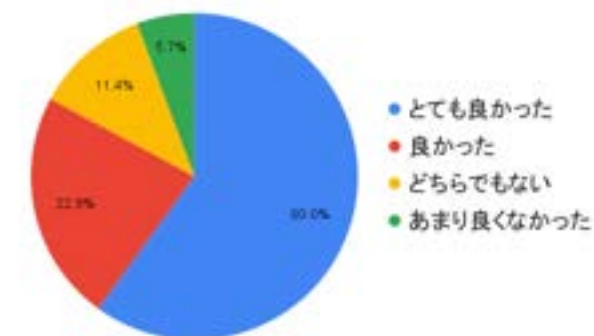
伝える難しさを理解しました。

ジェスチャーはむずかしかったが、班の人たちと協力できて楽しかった。

運営委員長コメント

形容詞を伝えるという表現が難しいゲームだったが、各グループ1日目で仲良くなったところを活かし、上手にニュアンスを伝えあっていたように感じる。体で表現することでモーニングゲームとしても良いものであった。

県SF報告会について



参加者の声

ほかの県の課題や報告を聞き、共通点や相違点を発見し、質疑応答し合えたのでとても充実していたと思います。

資料をパワーポイントで作っておけば意見をまとめ、もっと伝えやすくなるかなと後悔したから。

他の県の課題やフォーラムで何を話し合ったかがよくわかったから。

県フォーラムで出た意見を交流しその後自分の班の提言文をまとめることが出来たから。

運営委員コメント

3分間の短い時間では準備していたものを出し切ることができなかったというコメントがいくつか見られ十分に周知できていなかった。当日の様子では活発な質疑応答が見られ、互いの都道府県の違いについて知る機会になったと思う。

分科会①について



参加者の声

今回のテーマを考える時に県フォーラムでも地域社会とは？から始まり、そこを解釈するのに苦労したのでグループで話すことができて自分の考えをまとめることができたのが良かった。

テーマについて考えるのが難しかった。

ルールをスムーズに決め、テーマについて考えることができたから。

テーマについて深掘りができたから。

議論に参加できてみんなと意見を共有できたため。

運営委員長コメント

ルールや役割を決めたことで分かりやすくなったとコメントが多く、テーマやルールを決めることでフォーラムとしての話し合いの場が設定されるとスカウト自身が感じられたことやテーマについて深く考えることができ良かった。しかしテーマの深掘りが各県でどのように行われているのか、気になる点であった。

分科会②について



参加者の声

地域課題について、模造紙を活用して上手く分類整理ができたため。

自分たちで具体例をだしあって、そこを深掘することで共通点を見つけるという、自分一人では力不足になることができたから。

全員の意見をしっかり聞き、まとめることが出来たから。

しっかりと課題を出して考えて話し合うことができたから。

でた問題点を踏まえて分類していくことで頭の中を整理し問題点から連想して視野を広めることが出来たから。

高校生の強み、弱みや、テーマの意味など、改めて考える場となった。

課題を纏めるのは特別難しかった訳では無いけど、矛盾が起きてしまったりしたから凄く頭を使った。

運営委員長コメント

原因の追及という点について、内容を理解し視点を広げることができたスカウトがいた一方で、意見ができなかったり話が脱線してまとまらなかったスカウトが見られた。このような事態にならないために各班にファシリテーターを置いていたが、同じ温度感で進める難しさを実感した。今後はスカウトたちの中で気づき合うことができるようにしたい。

分科会③について



参加者の声

議論に参加して意見を交換できたため。

何を軸にするのか、ほかの班はどうしているのかを各班で交流し合いながら模索し、次の分科会に繋がる工夫したまとめ方ができたと思います。

問題点を書き出し、想像力を広げて様々な問題に目を向けられたから。評価基準も明瞭にできた。

ふせんを移動できるのがめっちゃよかった。

優先順位を考えて、課題点を絞ることができた。

矢印を使ってどこの課題が高校生に適しているか、やりやすいかを考えることができたから。

他の班の話を手早く持ち帰ることができたことができた。

運営委員長コメント

項目に対しての優先順位を軸をもって決める点についてスカウトが軸を決めることで自分たちの大切にしたいものが出ていたように感じる良い時間であった。各グループで大切にしたいと考える軸が異なっていたために、1つの提言文としてまとめる際に難しさがあったのではないかと感じる。

分科会④について



参加者の声

最後までみんなで考えを振り絞って頑張れたから。

他のグループの考えを見ることで凝り固まっていた考えに新しい考えを生み出したから。

ほかの班の人の意見共有や、優先順位を決めることで多角的視点から物事を分析できた。また、違う基準の決め方を学び、新たな考え方を学んだ。

自分たちが解釈したことや今日なしあった内容を全て詰め込むことができたから。

ほかの班に聞きに行くとまた違う意見があった。

運営委員長コメント

今までの意見をまとめる難しい作業で提言文へ上手くまとまらず苦戦しているグループもあったが、そのグループ含めてこれまでの分科会を見直しながら次へと進む姿勢があり、スカウトのコメントからも各分科会がしっかりと繋がっていたと感じる。

分科会⑤について



参加者の声

なにかするときはPDCAサイクルを意識しながら計画することが重要だと気付いたから。

自分の過去の行動を振り返る機会となり、これから活かそうと思った。

このサイクルを活用することでプロジェクトがスムーズにできる気がした。

自分が試験で悪かった時とか、PDCAサイクルを活用していこうと思いました。

自分が元からPDCAサイクルを知っていて、よく使っているので、その知識を活かして班のメンバーにアドバイスや評価することができた。

PDCAサイクルをこれから使えるところで使って活動をよりよくしていこうと思った。

運営委員長コメント

PDCAを初めて知ったスカウトが一定数おり、日常の身近な事柄を題材とすることで活動を展開する方法として慣れることができたと感じる。ベンチャースカウトがPDCAをプロジェクト法の一つとして認識していないと知り、25SFでVSに共有することができて良かったのではないかと考える。

議長団会議について



参加者の声

議論に参加して意見を交換できたため。

地域課題は多様なため、そこに寄り添った提言文を上手く組み合わせることができたため。

各班で出た考えをより理解した人が集まって議論することで腹を割って自分たちが追求したいことをとことん追求できたから。

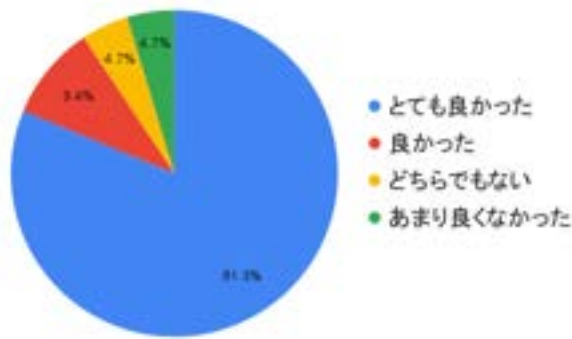
自分のグループにないものをした。

自分たちの意見をしっかり主張しながらも、共通点を見出していくことができた。

運営委員長コメント

短い時間で73人の意見の集約をする必要があるが、議長達も方向性に迷っていたり迷走していたりする時間が存在するなど人数が多いことによる議論の広がりが見えた。

交流会について



参加者の声

たくさん交換でき、面白いお土産話を聞いた。

いろいろな県のことをしれて仲を深めることができた。

全国の集まりは初めてだったのでいろいろな県の人と話してお土産を交換できてとても楽しかった。

それまでしゃべったことが無かった人とも楽しくしゃべれた。

1日目と同じで色々な県の人と交流することが出来たから。あと単純に面白かった。

もっといっぱい交換品を持ってこれればよかったです。みんなから全国のお土産をもらえて良かったです。

いろいろな人と話してお土産を交換することができて思い出に残ったから。

運営委員長コメント

全国から集まったスカウト同士でワッペン交換会やお土産の交換を行う様子から、全国規模の活動の魅力が詰まった交流会の時間になっていたと感じる。交流メンバーの組み合わせもゲーム性があり多くのスカウトと交流ができたのではないかなと思う。

2日目感想

たくさん話しあって私たちにできることの理解をすることができた。

最初はあまりしゃべれなかったが、後半から巻き返せた。

採択文を考える時に、私の意見やグループの友達との意見などを採択文に含められた。

考える時間が多い一日だったが、最終的にはうまくまとめることができたと思う。

話し合いでうまくいかないことがあったけど結論の部分は綺麗にまとまったので良かった。

話し合いが長い時間あり、集中力が切れたり眠くなったり話がとまったりしたけど最後まで話し合うことができてよかったです。

話し合いが多かったけど、とても自分のためになったなと思った。

3日目

全体会について



参加者の声

提言文の意味をよく理解できたから。

自分の意見をみんな言い合っただけでより理解を深めることができたから。

緊張感のあった全体会でしたが、分からなかったことを聞いたり、意見を言ったりなどができて良かったです。提言文が決定し達成感がありました！

宣言文の意図、みんなの思いがよく理解できたと思います。たくさん話し合えて、理解を深めてとてもいい全体会だったと思います。

議長を中心に、自分たちが提言文をより良いものにする為に理解を深めたり、持ち帰るにあたってどうすればいいのかを質疑応答で深めることが出来ました。

ピリピリして緊張したけど、議長の人達が上手くまとめてくれて、納得のいく提言文ができたから。

趣旨が変わったりしていたが、最終的に納得のいく全体会になり、十分自分で説明できるようになった。

最初に提言分の内容に関する質問とってほしかった。内容の議論は矛盾なく、理解出来た。よりよいものになったと思う。

運営委員長コメント

提言文の理解をしっかりとすることができたと感じるが、提言文をともに作る事ができなかったと感じているスカウトも一定数いたと感じる。県に持ち帰るために、提言文の意図を理解することができた点では今後期待ができる全体会であったと感じる。

3日間の感想

地域の問題を出し合い新たな気づきがあったこと。

全国フォーラムに来る人は皆勢いがあってすごいと思いました。

議長に挑戦して、フォーラムにかける熱意が凄い人が沢山いたことが印象深かった。

色々な地域の色々な困り事や課題を知ることが出来た。

みんな生きてる世界観がまったく違うことに感動した。

フォーラムそのものについて考えさせられた。

8. 事前準備

運営委員会発足

4月に第1回運営委員会が行われた。当日のフォーラムを迎えるまでに11回の運営委員会を行い準備を進めた。運営委員会は7月以降部長会、部門会、全体会の流れで情報共有や次回までの課題を整理しながら進行した。この進行を行うまでは全体会で共有する時間が多く十分に議論をする時間を取ることができなかつたという反省点が大きい。7月以降はその点が改善された。約半年程度の準備期間の前半では、準備は進めているが形として完成していないものが多くなってしまった。そのため後半に慌ただしく準備を進めることになってしまった。役割分担表の活用によって各部の仕事の割り振りが明確になり、連携を取りやすかつたと感じている。

運営委員のメンバー同士の交流が薄く気軽な相談等がしにくい状況にあったが、下見で対面で活動することで仲が深まつたことや当日に向けた課題の整理ができたこと、それまでの準備があつたことで、当日に向けての用意が進んだ。



事前提出課題

<内容>

今回のフォーラムでは、事前課題を2つ設定した。

①フォーラム全般に関する内容

②県フォーラムに関する内容

①について、フォーラムへ参加するにあたっての目標や、自身の住んでいる県の紹介、調べ学習として、地域の困りごととその解決策の記載、基調講演や調べ学習から高校生年代にできそうなことは何かについてまとめるものであった。

②について、県フォーラムの内容をまとめるものであった。

事前課題の詳細については事前集会で参加スカウトに対して説明を行なった。

紙媒体では手引きと同時に配布し、合わせてメールにてデータでの配布も行った。

また、提出方法についてはGoogleフォームを使用した。

<目的>

①についてはフォーラムでの議論の活性化のため、事前に知識をつける事、②については県フォーラム報告会での発表を円滑に進めることを目的とした。

<評価>

課題は事前集会より前に郵送やメールにて配布しており、手引き内に事前課題に関するページを用意することで内容を明確にした。

<反省>

Googleフォームでデータを回収する場合、個人ドライブのみ（運営委員会などで使っている共有ドライブは使用不可）であったため、設定するのに時間を要した。基調講演の打ち合わせをしていく中で、必要な課題や当日の日程が変更になったことから当初予定していた課題から変更になった。課題の変更点を参加者への案内が遅れてしまい、参加者を混乱させてしまった。原因として、手引き発送の期限を厳守できなかったこと、運営委員会内での連携不足があげられる。また事前課題②の内容説明の際に、当日の発表方法なども合わせて説明することで事前課題の質を担保できた。

<改善点>

逐一作成状況の報告を運営委員会内、プログラム委員会、事務局と共有し、変更点は素早く参加者・各県連盟へ連絡をする。

基調講演

今回のフォーラムでは初めて講師を2名呼び出して行った。

<意図>

前回行った、第24回全国スカウトフォーラムの反省として、

①一般社会の目線が足りないこと

②地元での活動がアウトドアばかりでボランティアが身近ではないこと

の2点が挙げられた。

これらを踏まえて、今回の全国スカウトフォーラムではボランティアについての一般的な幅広い知識や社会課題の多様性を事前集会で提供し、当日の時間に活動をどうやって考え、起こすのかについて知ってもらうことでその後の分科会や提言文作成の際のスカウトの手助けになると考えた。

また、ルックワイドの観点からスカウトにより多くの知見を提供できる方法を考えた結果、知識分野と活動分野それぞれの分野に精通している方が最適であると考え講演者を2人とした。

<打ち合わせの流れ等のスケジュール>

日程	相手	内容
9月19日(木)20:00~21:30	柏木様	・基調講演の依頼 ・ボーイスカウトに関する説明 ・スカウトフォーラムに関する説明
10月2日(水)19:00~21:00	辻様・柏木様	・ボーイスカウトに関する簡単な説明 ・当日の一連の流れの説明 ・質疑応答
10月15日(火)20:00~21:00	辻様	・辻様の作成資料の確認・内容すり合わせ ・日程の最終確認
10月23日(水)20:00~21:30	柏木様	・依頼内容の再確認 ・柏木様から作成状況と内容の共有 ・日程の最終確認

<評価>

上記①について、実際に社会で様々な地域問題に対して活動している方からお話しいただいたのでその点は評価できる。また2名の講師の方にご講演いただいたことで、一つの活動が正解ではないことも十分に伝えることができた。また、②についても実際に行われている支援を多く提示していただいたため、様々なボランティアがあることを伝えることができた。

<反省>

基調講演者同士の打ち合わせにより変更となる内容やタイムスケジュールが多くあり、変更になった際、頻繁にコミュニケーションが取れなかった。また、各講演同士や講演と分科会の繋がりをうまく伝えることができず、一つ一つの内容が独立してしまった。

<改善点>

講演者の選定を早くすることで話し合いの期間を多く設け、内容についても講演者を交え十分な議論を行う。

9. 運営委員長所感

今回の全国スカウトフォーラムでは初となる県代表2人制度や2名の基調講演者、地方開催であり支援委員会の存在がありました。これまでのスカウトフォーラムの方法をベースにしながらい第25回全国スカウトフォーラムを作りました。初めての試みによって生じた変更・対応や関係各所と連携した準備、また運営では14人の運営委員が各チームに分かれ準備を進めチーム間での円滑な連携によって、「高校生年代×地域社会～私たちだからできること～」のテーマのもと提言文「きっかけをつくれるVSが先陣を切る！！身のまわりの人を巻き込み、“地域をよりよくする意識を0から1へ”」が作られ、無事に全国スカウトフォーラムを終えることができたと感じています。

事前集会、本番共に準備した計画書やタイムスケジュールを基に当日の変更点を運営委員会だけでなく、プログラム委員会・支援委員会・事務局と連携して取り進めました。本番では大雨という悪天候で公共交通機関が止まり代表スカウトが集合できないトラブルはありましたが、怪我無くスカウトが現地に集合しフォーラムを行うことができました。

準備段階では運営委員長としてうまく運営委員会を進めることができない時も多くありましたが、各チームが準備を進め計画書を作成していたおかげで、当日発生した問題に対しても円滑に対応することができたと感じ、とても心強い運営委員でした。

今回のテーマの「高校生年代×地域社会～私たちだからできること～」では、“高校生年代”や“私たち”とはベンチャースカウトのみを指すのか、高校生年代全員のことを指すのかという点や地域社会の規模感が各自で異なる点に難しさがありました。また、全国のスカウトが集まるため、困りごとや課題に地域差があることを理解し、共通点を探しながらも自身の地域にフォーカスして話し合いを行う難しさもありました。「きっかけをつくれるVSが先陣を切る！！身のまわりの人を巻き込み、“地域をよりよくする意識を0から1へ”」では、地域ごとの特徴やベンチャースカウトの特徴を考え自分が動くという主体性を持つこと、主語をベンチャースカウトに置きながら地域社会をより良くするために各地域で考え踏み出し、ベンチャースカウトのみで完結するのではなくまわりを巻き込み、その意識を広めたいという思いの詰まった提言文になりました。

また、73名の県代表が集まり、活発な意見交換や交流が見られました。県代表1人1人には、スカウトフォーラムで感じたことや学んだことと提言文を各都道府県へと持ち帰り、県アフターフォーラムでさらなる議論を深め、彼らと地域社会にとって有意義な活動へ繋げることを願うとともに、第25回全国スカウトフォーラムの運営委員長として彼らの展開する活動を楽しみにしています。

第25回全国スカウトフォーラム運営委員長
中村仁奈

10. 講評

第25回全国スカウトフォーラムも、無事に終えることができ、全国から参加したスカウトにより提言文をまとめることができました。

前回の第24回と同じく「採択文」ではなく、「提言文」にしたのは、各県代表のベンチャースカウトたちが地域に戻った時に、より自らの問題としてそれぞれの課題に取り組むことができるように運営チームが合意して設定したものです。

今回の提言文は、ベンチャー年代に期待されている使命をよく自覚し、周りの人々を巻き込みながら地域を良くしていく原動力となるという決意が表れています。

また、今回もフォーラムの準備から運営のほぼ一切を、公募したローバースカウトによる運営委員会によって行いました。全国規模で実施される日本連盟の主催事業がスカウトによって運営されるのは、全国スカウトフォーラムのよき伝統であり、スカウト・青年の参画方針に示される「日本連盟の組織運営面、スカウト教育面に関して青年の意思決定の参画機会をつくる」一つの機会として成果を上げつつあると思います。

そして、参加者へは、今回から初めて「スカウトと私たちのコミュニケーションシート」を送付して、参加者自身から苦手なことや手助けが必要なことを知らせていただき、運営側として配慮が必要なことを事前に把握して準備に万全を期しました。多様性とは単に人種や年齢の多様性のみならず、身体的なハンディキャップや学習障害を持った青少年も安心して事業に参加できるインクルーシブな運営が必要であることも意図されており、今後の日本連盟の主催事業でもこのような配慮がなされてゆくように、まずはスカウトフォーラムから取り組みを始めました。

きっと、このスカウトフォーラムで仲間と共に議論をし、多くの刺激を得たベンチャースカウトたちが次のアクションに繋げていき、その輪を日本全国へとムーブメントを起こしてくれることを心待ちにするとともに、後輩スカウトへのあこがれの存在となってくれることを期待しております。

最後になりましたが、参加した70余名のスカウトと運営委員へ、刺激と学びを与えてくださいました、NPO法人こうべユースネットの辻様、並びにNPO法人シミンズシーズの柏木様へは、スカウト自身が自分たちの地域や自らのネットワークをどのように構築していくかまた、それを机上ではなく自らのアクションで変革を起こしていくことの素晴らしさを教えていただきました。あらためてここに感謝申し上げます。そして、参加スカウト、運営委員がこの素晴らしく有意義なフォーラムを実施できたのも、ひとえに会場のご手配・準備をし、スカウトを迎え入れてくださいました兵庫連盟様、柔軟な対応とチームワークによるご支援をいただきました兵庫連盟支援委員会の皆様へ心より感謝と御礼を申し上げます。

ボーイスカウト日本連盟 プログラムコミッショナー プログラム委員長 川瀬政美

11. 付録

広報

<内容>

- ・フォーラム当日までの広報
- ・事前集会・フォーラム当日の広報

<媒体>

- ・全国スカウトフォーラム公式 Facebook
- ・ボーイスカウト日本連盟公式 Instagram

<評価>

ベンチャースカウト隊指導者に向けた広報を目的として広報活動を行った。広報活動は動き出しが遅れてしまい、計画通り行えなかった。事前に依頼することで、日本連盟のInstagramアカウントでもスカウトフォーラムの投稿をしてもらうことができた。

<反省>

参加していない全国のベンチャースカウトにリーチするためにInstagramのアカウント開設を依頼したが、時期が遅く間に合わなかった。ベンチャースカウトへ直接届けたいのは、県や地区などのフォーラムが円滑に進めることができるためである。当日は広報担当がファシリテーターも兼任していたため、リアルタイムでの広報が行えなかった。また、名前に関して編集が必要であったため追加で時間を要した。写真の撮り方を考えるなど事前に想定しておくべきであった。

<改善点>

日本連盟に依頼する場合は特に早く動き出すこと、また広報活動を行う上での注意点を事前に確認すること。

第25回全国スカウトフォーラム実施報告書
第25回スカウトフォーラム運営委員会
2025(令和7)年2月発行

発行: 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
TEL: 03-6913-6262
E-mail: program@scout.or.jp

<https://www.scout.or.jp/member/25sf>